

半嶺満教育長 メッセージ

このたび、高校生が大麻所持により検挙された事件が、再び発生したことに対し、強い危機感を感じております。

これまでも、各学校においては、大麻等薬物が中高校生の身近にせまっているという重大性に鑑み、学校教育活動全体を通して、様々な観点から薬物乱用防止教育を行い、再発防止に努めてきたところであります。

また、PTA 連合会等をはじめとする社会教育関係団体、地域の行政、警察等様々な関係団体とも連携協力し、児童生徒を薬物等の魔の手から守るよう、懸命な取組が続けられているところです。

しかしながら、薬物汚染は若者の間に確実に広がっております。

県教育委員会としましては、今回の大麻による検挙事案は氷山の一角であるとの認識のもと、変化する「大麻等薬物の態様とその危険性」、「SNS 等を通じた児童生徒への薬物情報の伝わり方の危険性」などに注視し、これからも警鐘を鳴らし続ける必要があると考えております。

さらに、薬物等への依存は、児童生徒が学校や家庭等での悩みや困り感、孤独感を他者に相談できず、薬物等への依存に逃げ込んでしまうことにより、起こる可能性も指摘されております。

先生方は各学校において、今一度、児童生徒に目を配り、変化を的確に把握することの重要性を再認識していただき、児童生徒の一人一人に寄り添った支援に努めていただきますよう、お願い申し上げます。

私たち教職員は、児童生徒自身が、自らを蝕む薬物等の情報に対して、その誘惑を断

ち、自らを貶めないための健全な「情報の取捨選択力」や「危機管理能力」についても、育成を強化していく必要があります。このことは、薬物乱用等の未然防止を図るうえで重要な視点であり、繰り返し何度も児童生徒に向けて伝え続けてまいりましょう。そして、教職員や保護者などの身近な大人が、児童生徒が困ったときに頼れる存在になることも重要であると考えます。

本県の未来を担う児童生徒が、心身ともに健やかに成長することは、教職員はもとより、全県民の切なる願いであり、私たちは県民全体で児童生徒を危険な薬物から守るため、一丸となって取組んでいく必要があります。

今回の事件を受けて、各学校における薬物乱用防止教育のさらなる徹底を強くお願い申し上げ、私のメッセージとします。

沖縄県教育長

半嶺 満